



長久手市文化の家
NAGAKUTE Cultural Center

フレンズ

No. 52

2014年5月15日発行

機関紙 フレンズ 編集部

Tel : 0561 (61) 3411

長久手市文化の家
フレンズ

年次総会を開催

4月5日 光のホール



フレンズ総会であいさつをされる
文化の家 榎山事務局長

文化の家フレンズは2014年度の総会を、4月5日土曜日、文化の家・光のホールで開催しました。

来賓として出席いただいた文化の家 榎山事務局長から「文化の家とともに15年間歩んできたフレンズの存在を誇りに思っています。今後も、いつそう連携を強めて文化の家をより良くしていきたいでしょう」とごあいさつをいただきました。

議事に入り、2013年度の活動報告、会計報告が承認され、続いて2014年度活動計画および予算案について建設的なご意見もいただいたのち 提案どおり

可決されました。

また、新年度の役員を別掲のよう
に選出後、榎山事務局長から文化の家の 職員異動の紹介があり

総会を終えました。
総会後は コンサートを堪能

総会の終了後、アトラクション
として文化の家創造スタッフの



高木俊彰さん(写真・右)と高木良さんに
よるミニコンサート

高木俊彰さんと、その弟の高木良さんご兄弟による「ふたりのチェロ」と題したミニコンサートが開かれました。

ヘンデル作曲「マカベウスのユダの主題による変奏曲」で始まり、サンサーンスの「白鳥」やバッハの「G線上のアリア」、アイランド民謡「ロンドンデリーのうた」では耳に親しい美しい旋律が奏でられました。また晩年のパブロ・カザルスが、国連本部での国連25周年を記念する集会で、平和への強い願いを込めて演奏したスペイン・カタロニア地方の民謡「鳥のうた」の演奏は、その哀愁を帯びた音色が聴く者を魅了しました。

どれも聴きなれたメロディの曲が時には重厚に、また軽やかにとご兄弟の息の合った演奏は素晴らしく、身近なところでチェロの生演奏に浸ることができ、とても贅沢なひと時でした。

◆ お詫びと訂正 ◆

3月15日発行のフレンズ機関紙ミニで、フレンズのつどい Part. 31 関連の催しに關し『ハンドサイン』によるダンス講習会の日程のうち、7月14日は7月24日の誤りでした。お詫びし訂正します。

2014年度フレンズ役員

会 長	水野美々子
副会長	石田由利子(事業部部長)
副会長	須田千賀子(文化の家企画委員)
会 計	浅田悠紀(文化の家運営委員)
事務局長	山口 節子
役 員	鈴木多恵子(当日運営部部長)
役 員	岩瀬 信廣(機関紙部部長)
役 員	福岡八重子(研修部部長)
役 員	牧野 洋子(マニュアル部部長)
監 査	瀬川 典子
監 査	森下 愛子(文化の家職員)

フレンズのつどい Part. 31

～目で聴くミュージック～

歌って踊る ～ HAND SIGN ～

7月27日(日) 午後5時開演(4時30分開場)

長久手市文化の家 森のホール (全席自由)

入場料 フレンズ会員 2,000円 (本人のみ)

一 般 2,500円

小中学生 1,000円

※ 未就学児の入場はご遠慮ください

文化の家

新職員の紹介

4月の長久手市役所人事異動にともない、文化の家に3名の職員が配属されました。フレッシュな力を発揮して文化の家をますます魅力あるものにしていただきたいと思えます。

またフレンズの活動にご理解を寄せていただき、力強いご支援とご協力をよろしくお願いたします。



管理係長 白木 敏雄

今年度より文化の家に配属となりました白木です。

昨年度までは、建設部土木課に在籍しておりました。

私は、平成9年に入庁して以来17年間建設部に在籍していましたが、今回初めて部をまたぎ、くらし文化部に配属となりました。

現時点の私は、文化・芸術に関して知らないことばかりですが、フレンズさんをはじめ文化の家に関係する皆さまからご指導を受けながら、文化の家と共に私自

身も成長できればと思っておりますので、皆さまよろしくお願いたします。



事業係 中根 秀彰

4月の人事異動で文化の家に配属されました中根です。3月までは福祉課に在籍しておりました。

私自身、文化・芸術の初心者ですが、フレンズの皆さまから文化・芸術のいろはを教わりながら、日々勉強していきたくと思えます。

フレンズの皆さまと文化の家の職員が一体となって文化のまち長久手、長久

手市が誇る文化の家を盛り上げていきたいと思えますので、これからどうぞよろしくお願いたします。



事業係 笹山 実希

4月に文化の家に配属されました笹山です。幼少の頃から何度となく訪れた文化の家で、今度は事業係として皆さまと働けることを大変うれしく思っております。新社会人らしく元気に頑張りたいと思えます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

トピックス

文化の家

『いざ』に備え

避難訓練

◆フレンズスタッフも参加◆

3月27日、文化の家が避難訓練を行い、フレンズスタッフもこの訓練に参加しました。

訓練は、風のホールで催し物開催中



非常時には状況に応じてドアを開放し、避難路を確保します

に火災が発生したという想定で行われました。

フレンズスタッフがホールスタッフに携わったとき、避難経路の確保、観客の確かな誘導などの役割を確実に実行できるよう、真剣に訓練に参加しました。



訓練後の真剣なミーティング

公演 こぼれ話

チエリスト

ステイヴン・イツサーリス



公演にまつわるエピソード

長久手市文化の家 事業係 生田 創

ステイヴン・イツサーリスは現代最高峰のチエリストの一人です。

2010年6月に文化の家でキッズ・プログラムとリサイタルを2日間にわたって行う準備を進めていきました。

公演一ヶ月前のある日、所属事務所から

一本の電話が入りました。「家族の健康上の都合で、イツサーリスは来日できなくなりました」。

文化の家開館10年で初めての『公演中止』を決定し、払い戻しの手続きを行い、なんとか事なきを得ました。このトラブルでもっとも印象的だったことは、すでにチケットを買ってくださった多くのお客さんから「残念ですね。とても素晴らしいアーティストなので、次の機会は必ず行きます」と温かい言葉をいただいたことでした。

数ヶ月後再び事務所より連絡がありました。

イツサーリスが、翌2011年の5月にN響との共演のため短期間来日するが、本人いわく「今回お客様や子ども達に会えずとても残念な思いをしたのでぜひ長久手で演奏したい」というものでした。残念ながらホールが空いておらず断念しましたが、心からうれしく思いました。

2011年、3月11日の震災の影響で多くの外来演奏家たちがキャンセルする中、イツサーリスは予定どおり来日し、NHK交響楽団とウォルトンのチェ

ロ協奏曲を共演した様子がテレビで放映されました。その音楽性やカリスマ性はますます円熟味を帯び、大変感銘を受けたと同時に、長久手公演実現への想いがより強くなりました。

そして、ビッグニュースが飛び込んで来ました。「2012年11月、オール・ベートーヴェン・プログラムを引っさげてイツサーリス来日！共演はフォルテピアノの大御所ロバート・レヴィン」。

短い来日の中で唯一の土日を押さえることができ、かくして東京と長久手のみというスペシャル公演が実現するにいたったのでした。

長久手公演の大きな特徴は、キッズ・プログラムでした。イツサーリスは、子どものための音楽エッセイを多く出版していて、音楽の研究者としても知られています。当日は、演奏はもちろんのこと、エッセイの朗読やリクエストコーナーなどトークを交えて、子どもたちとの楽しい交流が生まれました。終演後、子どもたちがこの公演にさきがけて描いた30点近くの作品すべてに直筆のメッセージを書いてくれました。

翌日のリサイタルは一転、究極のベートーヴェンともいうべき熱演が繰り広げられました。フォルテピアノのロバート・レヴィンの演奏も素晴らしく、イツサーリスとの掛け合いはまさに丁々発止、ライヴならではの醍醐味が凝縮された名演に聴衆が興奮し、酔いしれました。

アンコールでは、バッハのオルガン曲か

らコラール(BWV639)が演奏されました。実はイツサーリスはバッハをめったに人前で弾かない、と聞いていたのでびっくりしました。私の知り合いが終演後のサイン会で選曲の理由を訊ねたところ、こう言われたそうです。

「この曲以外にありますか？」

アンケートなどで「やつと会えてうれしかった」という感想を多数いただきました。

公演中止から4年、夢が叶った瞬間でした。



キッズプログラムでの演奏を終えてピアノ伴奏のロバート・レヴィンさんとにこやかに肩を組むイツサーリスさん



イツサーリスさんは、キッズプログラムの演奏後、一人ひとりに優しく声をかけサインに応じていました

香港話劇團 香港舞台劇奨最優秀演出賞 演出:司徒慧焯

『脱皮爸爸』

【チケット料金(フレンズ・一般)】

- 1公演券(日時指定 全自由席):3,500円
- トークセッション券:500円
- セット券(B級+香港話劇團+トークセッション券):6,000円

『ぬけがら』は、劇作家 佃 典彦が2005年に文学座に書き下ろし、翌2006年に「岸田國土戯曲賞」を受賞。2011年には「香港話劇團」が『脱皮爸爸』として翻訳上演を行い、香港最大の演劇賞である香港舞台劇奨の最優秀演出賞など主要7部門を受賞。そして今回、文化の家で「劇団B級プロデュース」により集結した愛知の実力俳優陣による『ぬけがら』と「香港話劇團」による『脱皮爸爸』の連続公演が実現した。

東京演劇アンサンブル こどもの劇場 目をさませ トラゴロウ

作:小沢 正 脚本・演出:広渡常敏
音楽:林 光 舞踊:西田 堯

6月1日(日) 午後4時開演 午後3時30分開場
森のホール

入場料(全自由席)

- | | | | | |
|----|------------|--------|----|--------|
| 前売 | フレンズ | 1,800円 | 一般 | 2,000円 |
| | こども(中学生以下) | 1,500円 | | |
| 当日 | フレンズ・一般 | 2,500円 | | |
| | こども(中学生以下) | 1,500円 | | |

室内で聴こう!シリーズ2014

JAZZ IN THE ROOM

- ★ 6月21日(土) 14:00 光のホール 100名先着順
プレイベント/レクチャー「さあ、ジャズを聴こう!」
入場無料 ※ただしシリーズいずれかのチケットが必要
- ① 7月2日(水) 19:00 音楽室
気軽にJAZZ!~地元発! ジャズの新しいムーヴメント!
- ② 8月20日(水) 17:00 風のホール
親子でスウィング~ジャズが生まれた街!
ニューオリンズジャズで楽しく!
- ③ 10月29日(水) 19:00 風のホール
秋の夜長JAZZ!~情熱のヴォーカル
- ④ 12月17日(水) 19:00 音楽室
クリスマスJAZZ!~よいお年を!

「入場料」各回1,000円(全席自由)

②の親子でスウィングのみ 4歳~中学生は500円

編集者コラム

春の訪れを告げるフキノトウ
桜の元でつくし採り、潮の香りの潮干狩り
筍、タラの芽、山椒の芽等々
食卓を彩る季節の味に自然の恵みを満喫した
素晴らしい日本の四季・・・大切にしたい

岸田國土戯曲賞受賞作 作・演出:佃 典彦

『ぬけがら』

劇団B級遊撃隊プロデュース

公演の日程 13:30 17:00 18:30

5月31日(土)	香★		B
6月1日(日)	B	香	

凡例 香 香港話劇團
B 劇団B級遊撃隊プロデュース

※受付開始は開演の1時間前、開場は30分前

※香港話劇團公演は日本語字幕付き

★の回は両演出家のトークセッションあり
(トークセッション券が必要です)

土の下に歴史あり

ほっとす
すぺーす

長久手市在住 小弟歩荷

先頃、長久手市歴史資料室の亜炭採掘ジオラマを前に、当時坑内夫として働いた経験を持つY氏から貴重なお話を聞く機会を得た。かつてこの町では明治期から亜炭の採掘が盛んであったという。亜炭坑は幾つもあり昭和の30年頃まで安価な化石燃料として、主に飲食店などで広く使われ地域経済を潤していたのである。岩作の旧道沿いには料理屋、銭湯、カフェ、ビリヤード場などが軒を連ねていたようだ。

採掘には縦坑を降り横坑を屈みながら奥へと進む。坑道は狭くまるで蟻穴のようだったという。信じ難いが天井高が無いため採炭も座ったままの作業だったそうだ。まるで中世の佐渡金鉱のような話に驚くほかない。

これはこの地域の炭層が薄いからであるが坑内の換気は保たれていたのだろうか。また常に落盤事故の危険と隣合わせだったに違いない。ここにも戦後の復興を成し遂げた人々の精気を見ることができよう。隆盛を極めた亜炭採掘であるが石油の販売が自由化されたことにより一挙に閉山へと追い込まれていったのである。

時は移り今では亜炭のことを知る人は少ないが、半世紀ほど前のある日まで、この町の土の下に埋もれた歴史があったことは確かである。

偶然出会った亜炭採掘の生き証人から長久手の近代史の一端を聞いたことは歴史好きの私には幸運だった。